

# 参考資料

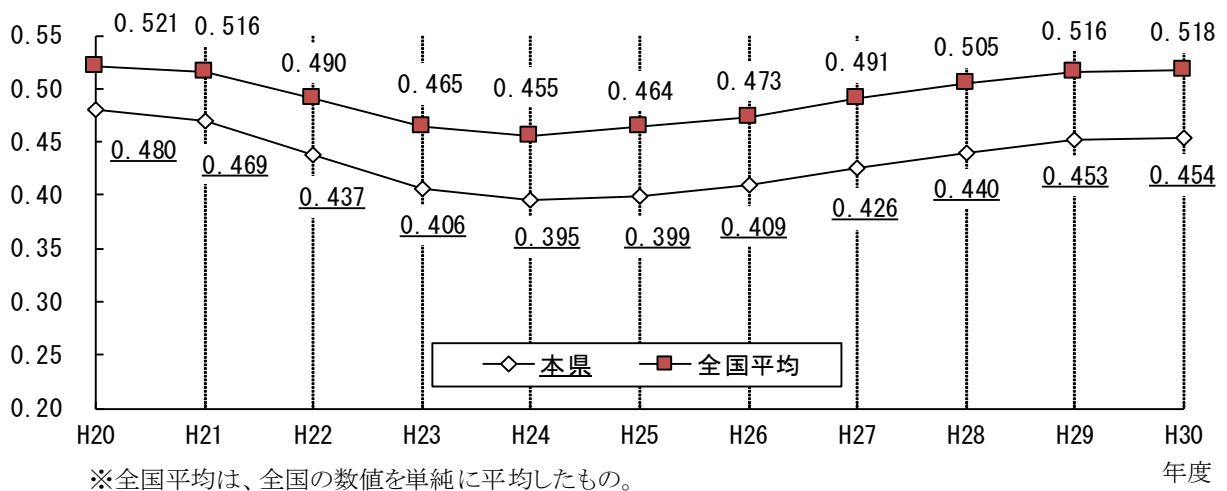
## 山口県の財政指標

決算に基づく本県の主な財政指標の状況（普通会計）は、次のとおりです。

### (1) 財政力指数

地方公共団体の財政力（税収入の大きさ）を表す指標で、「1」に近く、また「1」を超えるほど財源に余裕があることを示しています。

第7図 財政力指数の推移

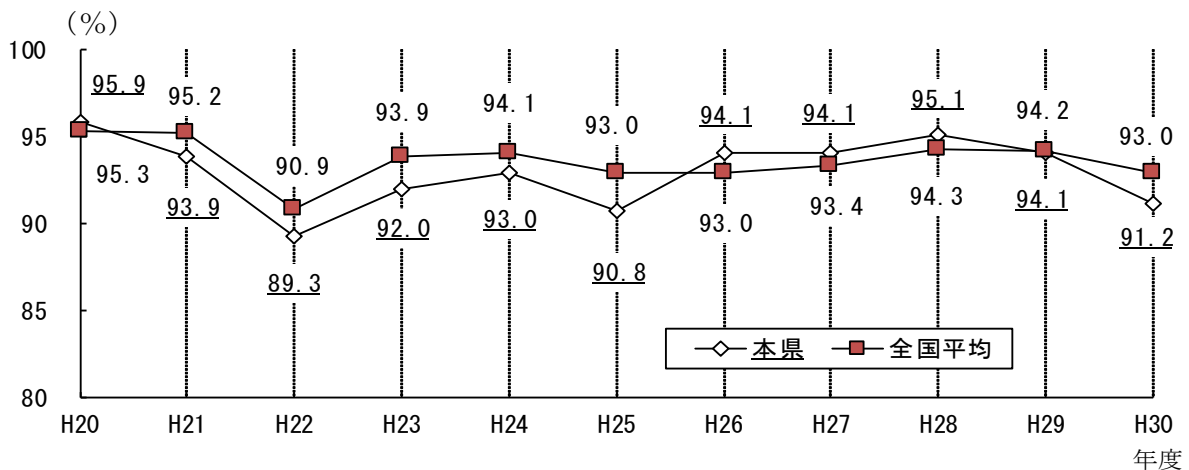


### (2) 経常収支比率

地方公共団体の財政構造の弾力性を測る指標で、一般財源のうち地方税、普通交付税を中心とする毎年度の経常的な収入（経常一般財源）が、人件費、扶助費、公債費などの毎年度の恒常的な支出（経常的な支出）にどの程度充当されているかを示す割合です。

比率が低いほど投資的経費や政策的な経費を充実することができ、財政構造が弾力性に富んでいると判断されます。

第8図 経常収支比率の推移



### (3) 健全化判断比率及び公営企業の資金不足比率

「地方公共団体の財政の健全化に関する法律」の規定に基づく健全化判断比率及び公営企業の資金不足比率について、30年度決算に係る状況は以下のとおりです。

いずれの比率についても、早期健全化基準及び経営健全化基準を下回っています。

**第20表** 健全化判断比率

区分	健全化判断比率	早期健全化基準	財政再生基準
実質赤字比率	—	3.75%	5%
連結実質赤字比率	—	8.75%	15%
実質公債費比率	11.8%	25.0%	35%
将来負担比率	206.2%	400.0%	

「—」は、実質赤字額、連結実質赤字額がないことを表す。

**第21表** 公営企業の資金不足比率

特別会計の名称	資金不足比率	経営健全化基準
工業用水道事業会計	—	} 20%
電気事業会計	—	
港湾整備事業特別会計	—	
下関漁港地方卸売市場特別会計	—	
流域下水道事業特別会計	—	

「—」は、資金不足額がないことを表す。

## 各指標の算定方法

### 1 健全化判断比率

#### (1) 実質赤字比率

(一般会計等の赤字の程度を指標化し、財政運営の悪化の度合いを示すもの。)

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額}}{\text{標準財政規模(通常収入されると見込まれる一般財源の規模)}}$$

## (2) 連結実質赤字比率

(全ての会計の赤字や黒字を合算し、地方公共団体全体としての赤字の程度を指標化し、地方公共団体全体としての財政運営の悪化の度合いを示すもの。)

$$\boxed{\text{連結実質赤字比率}} = \frac{\text{連結実質赤字額 (一般会計、特別会計、公営企業会計)}}{\text{標準財政規模}}$$

## (3) 実質公債費比率

(借入金の返済額及びこれに準じる額の大きさを指標化し、資金繰りの程度を示すもの。)

$$\boxed{\text{実質公債費比率}} = \frac{\text{①+②+③-④}}{\text{⑤-④}}$$

(3カ年平均)

- ① 地方債元利償還金
- ② 公営企業債償還充当繰出金
- ③ 公債費に準ずる債務負担行為等
- ④ 元利償還金等に係る基準財政需要額算入額
- ⑤ 標準財政規模

## (4) 将来負担比率

(地方公共団体の一般会計の借入金や将来支払っていく可能性のある負担等の現時点での残高の程度を指標化し、将来財政を圧迫する可能性の度合いを示すもの。)

$$\boxed{\text{将来負担比率}} = \frac{\text{①+②+③+④+⑤-⑥-⑦-⑧}}{\text{⑨-⑩}}$$

- ① 地方債現在高
- ② 債務負担行為に基づく支出予定額
- ③ 公営企業債の元金償還に充てる一般会計等からの繰入見込額
- ④ 退職手当負担見込額
- ⑤ 設立法人の負債額等負担見込額
- ⑥ 充当可能基金
- ⑦ 特定財源見込額
- ⑧ 地方債現在高等に係る基準財政需要額算入見込額
- ⑨ 標準財政規模
- ⑩ 元利償還金等に係る基準財政需要額算入額

## 2 公営企業の資金不足比率

(公営企業の資金不足を、公営企業の事業規模である料金収入の規模と比較して指標化し、経営の悪化の度合いを示すもの。)

$$\boxed{\text{資金不足比率}} = \frac{\text{資金の不足額}}{\text{事業の規模}}$$

## 平成30年度山口県の財務書類

### ● 平成30年度の財務書類について

県では、これまでも、資産や負債等に関するストックの状況や、資産形成につながらない行政活動の状況など、県の総合的な財政状況を把握するため、「総務省方式改訂モデル」を採用し、普通会計ベース及び連結ベースで財務書類を作成してきたところです。

平成28年度決算分からは、平成27年1月に総務省が示した固定資産台帳の整備や複式簿記の導入を前提とした「全国統一的な基準」に基づき、財務書類を作成することとしました。

### ● 財務書類の対象範囲

- ①一般会計等 一般会計及び地方公営事業会計以外の特別会計  
(普通会計と対象は同じ)
- ②県 全 体 一般会計等に地方公営事業会計<sup>※</sup>を加えたもの
- ③連 結 県全体に地方独立行政法人及び公益法人・一般法人若しくは会社法法人で県の出資比率が25%以上の第三セクター等を加えたもの

※ 流域下水道事業は公営企業会計適用の集中取組期間中のため、平成30年度決算は連結対象外となっています。

### ● 財務書類の構成

- ①貸借対照表 県が所有する資産や債務などのストック情報を示すもの
- ②行政コスト計算書 県の経常的な活動に伴うコストと受益者負担による収入を示すもの
- ③純資産変動計算書 純資産が一会計期間中にどのように増減したかを示すもの
- ④資金収支計算書 一会計期間中の現金の収支を示すもの

# 1 一般会計等の財務書類

## (1) 貸借対照表

### 《年度末時点における資産や負債などのストック情報》

- ◇ 平成30年度末の資産は3兆668億円、負債は1兆4,207億円で、資産が負債を上回り、純資産は1兆6,461億円となっています。
- ◇ 資産は、会計期間中に526億円減少しており、その主な要因は、道路・港湾などのインフラ施設に係る減価償却累計額の増加によるものです。
- ◇ 負債は、会計期間中に203億円減少しており、その主な要因は、公共事業等の財源に充当する一般分の県債残高縮減に努めたことによるものです。
- ◇ 県民1人当たりに換算すると、期末時点の資産が223万円、負債が103万円となっています。

科 目	期首 a	期末 b	増減 b-a	科 目	期首 a	期末 b	増減 b-a
固定資産	30,865	30,314	△ 551	固定負債	12,878	12,657	△ 221
有形固定資産	29,148	28,564	△ 584	地方債 (長期)	11,116	10,968	△ 148
事業用資産	3,885	3,829	△ 56	退職手当引当金	1,680	1,608	△ 72
インフラ資産	25,109	24,582	△ 527	その他	82	81	△ 1
物 品	154	153	△ 1	流動負債	1,532	1,550	18
無形固定資産	119	116	△ 3	地方債 (短期)	1,350	1,366	16
投資その他資産	1,598	1,634	36	賞与等引当金	139	145	6
流動資産	329	354	25	その他	43	39	△ 4
現金預金	135	185	50	負債合計	14,410	14,207	△ 203
その他	194	169	△ 25	純資産	16,784	16,461	△ 323
資産合計	31,194	30,668	△ 526	負債・純資産合計	31,194	30,668	△ 526

(単位 億円)

### 《県民1人当たり》

科 目	期首 a	期末 b	増減 b-a	科 目	期首 a	期末 b	増減 b-a
資 産	225	223	△ 2	負 債	104	103	△ 1
				地方債	90	90	0
				純資産	121	120	△ 1

(単位 万円)

※住民基本台帳人口 期首 (H30. 3月末時点) 1,388,169人 期末 (H31. 3月末時点) 1,375,757人

# (一般会計等 つづき)

## (2) 行政コスト計算書

### 《経常的な活動に伴うコストと受益者負担による収入》

- ◇ 平成30年度における本県の行政サービスに係る経常的な費用は5,089億円、経常的な収益は164億円、費用と収益の差し引きである純経常行政コストは4,925億円になっています。
- ◇ 災害復旧事業費等の臨時的な損失は71億円、資産売却益などの臨時的な利益は7億円となっています。
- ◇ 純経常行政コストに、臨時損失・臨時利益を加えた純行政コストは4,989億円となっています。
- ◇ 県民1人当たりに換算すると、純行政コストは36万円になっています。

科 目	H29年度		H30年度		増 減		《県民1人当たり》 (単位 万円)	
	a	b	a	b	b - a	H29年度	H30年度	b - a
業務費用								
人件費 (職員給与費、退職手当引当金繰入額等)	3,198	3,185	△ 13			23	23	0
物件費 (需用費、委託料、使用料・賃借料等)	1,727	1,744	17			12	12	0
維持補修費	60	82	22			3	3	0
減価償却費	925	903	△ 22			0	1	1
その他の業務費用 (支払利息等)	131	77	△ 54			7	6	△ 1
移転費用 (県以外の主体に移転するコスト)	1,925	1,904	△ 21			14	14	0
補助金等	1,556	1,424	△ 132			11	10	△ 1
その他の移転費用 (社会保障給付費、繰出金等)	369	480	111			3	3	0
経常費用	5,123	5,089	△ 34			37	36	△ 1
経常収益 (使用料・手数料等)	174	164	△ 10			1	1	0
純経常行政コスト	4,949	4,925	△ 24			36	35	△ 1
臨時損失	49	71	22			0	1	1
臨時利益	1	7	6			0	0	0
純行政コスト	4,997	4,989	△ 8			36	36	0

純行政コストは、税収や国補助金などで賄うこととなります(次ページを参照ください)。

# (一般会計等 つづき)

## (3) 純資産変動計算書

- ◇ 会計期間中に本県の純資産（資産－負債）は323億円減少し、期末残高は1兆6,461億円となっています。
- ◇ 主な減少理由は、減価償却累計額の増や臨時財政対策債の発行によるものです。

行政コスト計算書で算定された純行政コストをマイナス計上しています。

純行政コストを賄う財源を示しています。

科 目	金 額	(単位 億円)
<b>前年度末純資産残高</b>	<b>A</b>	<b>16,784</b>
純行政コスト(△)	B	△ 4,989
財 源	C	4,659
税金等(県税、地方交付税等)		3,883
国等補助金		776
本年度差額	D (B+C)	△ 330
資産評価差額	E	34
無償所管換等	F	△ 27
本年度純資産変動額	G (D+E+F)	△ 323
<b>本年度末純資産残高</b>	<b>A+G</b>	<b>16,461</b>

貸借対照表の期末の「純資産」に一致します。

## (4) 資金収支計算書

- ◇ 会計期間中に本県の現金預金は50億円増加し、期末時点の残高は185億円となっています。
- ◇ 経常的な行政サービス提供等に係る業務活動収支は+414億円、投資活動収支は△222億円、財務活動収支は△138億円となっています。

科 目	金 額	(単位 億円)
<b>業務活動収支</b> (経常的な行政サービスの提供等)	<b>414</b>	
業務支出 (人件費、物件費、支払利息等)	4,717	
業務収入 (税金、地方交付税、国庫補助金等)	5,156	
臨時支出 (災害復旧費用等)	56	
臨時収入 (災害復旧費用に係る国庫補助金等)	31	
<b>投資活動収支</b> (固定資産や基金・貸付金等)	<b>△ 222</b>	
投資活動支出 (資産形成に係る工事請負費等)	805	
投資活動収入 (基金取崩、貸付金元金回収等)	583	
<b>財務活動収支</b> (地方債の発行や償還)	<b>△ 138</b>	
財務活動支出 (地方債償還金等)	1,362	
財務活動収入 (地方債発行収入)	1,224	
本年度資金収支額	A	54
本年度歳計外現金増減額	B	△ 4
<b>前年度末現金預金残高</b>	<b>C</b>	<b>135</b>
<b>本年度末現金預金残高</b>	<b>A+B+C</b>	<b>185</b>

貸借対照表の期末の「現金預金」に一致します。





### 3 連結財務書類

連結財務書類とは、全体財務書類に地方独立行政法人及び三セク等を加えた財務書類です。

《地方独立行政法人（3法人）》

▼公立大学法人山口県立大学

▼山口県産業技術センター

▼山口県立病院機構

《三セク等（21団体）》

▼(公財)山口県健康福祉財団

▼(公財)山口きらめき財団

▼(公財)やまぐち産業振興財団

▼(公財)やまぐち農林振興公社

▼(公財)山口県国際交流協会

▼(公財)山口県暴力追放運動推進センター

▼(公財)やまぐち移植医療推進財団

▼(一財)山口県国際総合センター

▼(一財)山口県施設管理財団

▼(一財)やまぐち森林担い手財団

▼(一財)山口県建設技術センター

▼(一財)山口県老人クラブ連合会

▼(公社)山口県青果物基金協会

▼(公社)山口県畜産振興協会

▼(公社)山口県栽培漁業公社

▼(一社)無角和種振興公社

▼(一社)山口県林業用苗木需給安定基金協会

▼岩国空港ビル(株)

▼山口宇部空港ビル(株)

▼山口県流通センター(株)

▼やまぐち港湾運営(株)

### 貸借対照表

科 目	期首 a	期末 b	増減 b-a	科 目	期首 a	期末 b	増減 b-a	
							負債	純資産
資 産	32,936	32,467	△ 469	負債	15,316	15,196	△ 120	
				純資産	17,620	17,271	△ 349	

(単位 億円)

### 行政コスト計算書

科 目	H29年度 a	H30年度 b	増減 b-a	科 目	H29年度 a	H30年度 b	増減 b-a	
							経常費用	経常収益
経常費用	5,432	6,734	1,302	臨時損失	50	87	37	
経常収益	479	471	△ 8	臨時利益	4	8	4	
純経常行政コスト	4,953	6,263	1,310	純行政コスト	4,999	6,342	1,343	

(単位 億円)

## 4 固定資産台帳

- ◇ 本県の期末時点の有形固定資産は、取得価額が5兆1,195億円（期首比+269億円）、減価償却累計額が2兆2,631億円（期首比+853億円）、差し引きの現在簿価が2兆8,564億円（期首比△584億円）となっています。
- ◇ 有形固定資産のうち、償却資産について、耐用年数に対してどの程度経過しているのかを示す「有形固定資産減価償却率」は、期末時点で49.8%となっています。

(単位 億円)

区分	期首 a		期末 b		増減 b-a	
	取得価額	減価償却累計額	取得価額	減価償却累計額	取得価額	減価償却累計額
<b>事業用資産</b>	<b>7,250</b>	<b>3,365</b>	<b>7,262</b>	<b>3,433</b>	<b>12</b>	<b>68</b>
土地	1,670		1,657		△13	△13
立木竹	6	6	6	6	0	0
建物 ※	5,051	3,051	5,077	3,109	26	58
工作物等 ※	461	314	487	324	26	10
建設仮勘定	62	62	35	35	△27	△27
<b>インフラ資産</b>	<b>43,408</b>	<b>18,299</b>	<b>43,664</b>	<b>19,082</b>	<b>256</b>	<b>783</b>
土地	3,874		3,886		12	0
建物 ※	344	122	347	131	3	9
工作物等 ※	39,006	18,177	39,230	18,951	224	774
道路 ※	23,603	9,246	23,723	9,755	120	509
海岸 ※	5,458	2,659	5,474	2,765	16	106
砂防 ※	5,285	3,583	5,341	3,656	56	73
港湾 ※	3,257	1,927	3,274	1,985	17	58
その他 ※	1,403	762	1,418	790	15	28
建設仮勘定	184		201		17	0
<b>物品 ※</b>	<b>268</b>	<b>114</b>	<b>269</b>	<b>116</b>	<b>1</b>	<b>2</b>
<b>有形固定資産計</b>	<b>50,926</b>	<b>21,778</b>	<b>51,195</b>	<b>22,631</b>	<b>269</b>	<b>853</b>
<b>減価償却率</b>	<b>48.3%</b>		<b>49.8%</b>		<b>1.5%</b>	

有形固定資産減価償却率：償却資産(区分名に「※」が付いた資産)を対象に、減価償却累計額／取得価額で算出。